



車内の金城学院大学

136限目

「染色加工学」

## 「蝶の発色原理から生まれた新素材？」

[バイオミメティクス]

私たちが着ている衣類の「色」の多くは石油由来の「合成染料」によって作られています。合成染料は大量に一定品質を保つメリットがありますが、中には人体や環境に負荷がかかるものもあります。そこで注目されているものが、染料を使わずに様々な色を表現する「構造発色繊維」です。これは、蝶の羽根の表面構造を模した特殊な繊維で、繊維表面で生じる光の干渉によって色を表現することができます。このように生物の構造を模して技術開発することを「バイオミメティクス(生体模倣技術)」と呼びます。この技術により、染色するよりもはるかに複雑な色彩を表現することができ、ネクタイやドレスなどの繊維製品だけでなく、アクセサリやクルマの車体まで様々な製品の色彩表現に用いられています。このように、技術革新のヒントは自然界に隠されていることも多く、様々なものづくりに活かされているのです。

デザインを広く学び、ものづくりの可能性を追求する。それが生活環境学部 環境デザイン学科。

強く、優しく。



金城学院大学